



本写真は「アジアの価値観と民主主義セミナー」主催「日本経済新聞社」様より御提供された作品です。ここに改めて感謝を申し上げます。

(公財) 中村元東方研究所／東方学院

東方だより

平成30年度前期号(通号第32号)

〒101-0021
 東京都千代田区外神田2-17-2
 延寿お茶の水ビル 4階
 TEL : 03-3251-4081
 FAX : 03-3251-4082
<http://www.toho.or.jp>
<http://www.toho-gakuin.org>

目次

シンポジウムの共催 —理事長ご挨拶にかえて—

- ・前田専學理事長2

平成30年度芳名録3

役員ご紹介

- ・ 釈悟震理事4
- ・ 平林博評議員5

特集「アジアの価値観と民主主義セミナー」

- ・ 丸井浩常務理事6

東方学院

- ・ 講師のご紹介 ケネス田中講師8
- 谷口富士夫講師8

- ・ 研究会員の声 宇杉玲子さん9
- 木村正子さん9

行事報告

- ・ 新春研究発表会10
- ・ 神儒仏合同講演会10
- ・ 仏教文化講演会11

今後のイベント

- ・ 東方学院・酬仏恩講合同講演会11
- ・ 新春研究発表会11

- 新刊紹介3・4・5・10・11
- 事務局通信12

シンポジウムの共催

—理事長ご挨拶にかえて—

前田専學理事長



平成三〇年
七月五日(木)
ホテルオーク
ラで、シンポ
ジウム「アジ
アの価値観と
民主主義」(主
催・日本経済

新聞社、共催・国際交流基金、ヴィヴェー
カーナンダ国際財団、中村元東方研究所)
が開催されました。その報告が七月二七日
付けの『日本経済新聞』に大きな記事とし
て出され、ご覧になった方もあるかと思
います。このシンポジウムはインドのモー
ディ首相と安倍首相の間で合意されたもの
で、今回はその第四回目のものでした。
中村先生以来インドとの関係が深い中村
元東方研究所は、開催に当たっては種々の
意見と協力を求められ、出来る限りの尽力
を致しました。シンポジウムの基調講演に
は、主催者推薦のグロリア・マカパガル・
アヨロ元フィリピン共和国大統領、スワ
ミーナータン・グルムールティ・ヴィヴェー
カーナンダ国際財団副会長(インド)が当

たり、最後に小生が登壇し、中村元先生の
「温かな心」・慈悲の精神を強調致しました。
シンポジウムには二つの部会があり、第
一部会は「アジアの価値観と伝統」、第二
部会は「アジアの解放と民主化の経験」ガ
ンジーが遺したものの」でした。

第一部会のモデレーターには丸井浩中村
元東方研究所常務理事が当たりました。第
一部会のプレゼンターのスズバット氏(イ
ンド、インド哲学研究評議会ICPR委員長)、
パネリストの孫晶氏(中国、中国社会科学
院哲学研究所教授)、金鍾瑞氏(韓国、ソ
ウル大名誉教授)、釈悟震師(日本、中村
元東方研究所理事)、アルモムツレ・スマ
ナサーラ師(スリランカ、日本テラワー
ダ仏教協会会長)は、すべて中村元東方
研究所が紹介・推薦した方々で、プレゼン
ターのイエニー・ワヒッド氏(インドネシ
ア、ワヒッドインスティテュート所長)だ
けが主催者側の推薦者でした。第二部会は
主催者側によって組織されましたが、第一
部会は中村元東方研究所が組織・運営した
といってもよい布陣となりました。

シンポジウムはモーディ首相のビデオ
メッセージで始まり、安倍首相の挨拶で終
わりました。安倍首相の挨拶は後半から、
急に話題が変わり、「本日ここには、前田
専學教授をはじめ、東方研究所から、専門
家の方々が参加されています。私は、故・
中村元先生のお仕事、先生自ら始められ

た東方研究所、東方学院を通じ、新たな世
代に伝えられておりますことを、まことに
心強く存じます。何でも中村教授は、サン
スクリット語、パリー語、チベット語、英語、
ドイツ語、ギリシャ語、フランス語のすべ
てに通曉されておられた。お書きになった
著書・論文の数は、日本語で一、一八六点、
英語など欧文では、三百点ほどだと伺いま
した。……私は、このように偉大な、巨星
というべき碩学と、せめて同時代の空気を
吸うことができただけを、誇りに思ひ
ます。そのお仕事の中には、仏教や、イン
ドの思想が説く「慈悲」について、深くお
考えになったものがあります。……先生の
説かれるところ、「慈悲」を尊ぶ思想の根っ
こには、自分と他人とは、違わない、同じ
なんだという考えがある。上下の差、優劣
などはもとよりない、絶対者がひとり突出
し、その前にあつての平等というものでも
ない、もともと、みなが同一、平等であ
る。そういう人間観があつての「慈悲」な
らんと、それが、私などの理解しますとこ
ろ、中村先生のお考えのようであります。
……」とこのような人間観が、日本の民主
主義を育てる滋養とも、ミネラルともなつ
てきているなどとして、安倍首相の挨拶は
終わりました。この安倍首相の温かく深い
ご理解に、嬉しくまた有り難く思いました。
丸井浩常務理事、釈悟震理事のご協力に謝
意を表します。

平成30年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。9月30日受領分までを掲載しております。

維持会員

一心寺 石上和敬 小笠原勝治 オリオン産業株式会社 川崎寿子 川崎大師平間寺 来馬明規 小坂機融 在家
 仏教こころの研究所 斎藤敬 宗教法人西来寺 史跡足利学校事務所 釈悟震 株式会社春秋社 淳心会(日野紹
 運) 末廣照純 鈴木一馨 浅草寺 高尾山薬王院 高崎宏子 高松孝行 多田孝文 中央学術研究所 千綿道人
 津田眞一 角田泰隆 トヨタ自動車株式会社 中田直道 成田山新勝寺 日本ヨーガ禅道院 念法眞教金剛寺(桶
 屋良祐) 羽矢辰夫 比良佳代子 公益財団法人仏教伝道協会 法恩寺(藤原敏文) 法清寺(奈良修一) 前田專
 學 前田式子 松久保秀胤 三木純子 水野善文 三友健容 学校法人武蔵野大学 吉田宏哲 渡邊信之 渡邊寶
 陽 渡邊隆生 山崎桂子

賛助会員

我妻綱子 阿部敦子 有馬頼底 粟野芳夫 石井勝彦 一島正真 入江宥道 石上智康 白井ふじ子 宇杉真 遠
 藤康 大井玄 太田正孝 大谷光真 小笠原隆元 岡田眞水 岡田行弘 荻山貴美子 菅野博史 北村彰宏 木村
 清孝 黒田大雲 小林和子 小林正和 小林守 小峰啓誉 小峰立丸 古村けさじ 小山典勇 金剛院仏教文化研
 究所 公益社団法人在家仏教協会 斎藤明 佐久間留理子 櫻井瑞彦 桜井俊彦 佐藤行教 下田勇人 新本均
 末木文美士 須佐知行 鈴木勇介 関戸堯海 千賀正榮 大海修一 高橋審也 高橋尚夫 田上太秀 武田浩学
 立花ひろ子 田丸淑子 千葉よし子 鶴谷志磨子 株式会社展勝地 東京書籍株式会社 公益財団法人東洋哲学研
 究所 一般財団法人徳育経営研究所 戸田裕久 鳥山玲 中谷信一 長野市南長野仏教会 中村行明 中村保志孝
 西尾秀生 西岡祖秀 西川高史 西宮寛 日本ヨーガ学会 長谷川恵子 畠中光享 花岡秀哉 花山多賀江 濱川
 香雅里 濱川量子 一月正人 平井恭子 福留順子 藤井教公 藤田宏達 法雲寺(水谷浩志) 保坂俊司 堀江順
 司 松原光法 松本知巳 的場裕子 水谷俊一 宮元啓一 森祖道 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 桂徳院(山
 本文溪) 由木義文 好井瑞皖

ご寄付

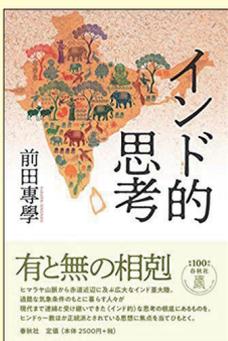
佐藤恭子 清水谷善圭 株式会社春秋社 関泰長 御園生妙子

新 装 版 案 内

前田專學著 『インド的思考<新版>』

世界の屋根・ヒマラヤ山脈から赤道近辺に及ぶ広大なインド亜大陸。この地に根づき過酷な気象条件のもとに暮らす人々が形成し、3200年余かけて現代まで連綿と受け継いできた<インド的>な思考の根底にあるものを、ヒンドゥー教ほか正統派とされている思想に焦点を当ててひもとく。

単行本：240頁
 出版社：春秋社 言語：日本語
 ISBN-10：4393134222
 ISBN-13：978-4393134221
 発売日：平成30年7月23日
 定価：本体2,500円(税別)



役員ご紹介

みをつくして

釈 悟震 理事



わたくしは昭和五二年以降、中村元博士から物心両面において筆舌に尽くせぬ程の御恩寵を賜わりながら、先生に生涯において堪え

「先生不孝者」に他ならぬ者でありましょう。このような慚愧に堪えない者である小生が、昭和四八年、万感のお召しに従って中村元博士が御設立なさり、渾身を込めて誠に全人格的な運営ならびに御発展をなしとげた当法人の運営の要人である理事に在職すべきかどうか、幾月日を悩ませて頂きました。しかしながら、中村元博士が御遷化なさって以来、全身全霊を以て孤軍奮闘なさっておられる現理事長前田専學先生の御賢察の妨にならない範囲においてお手伝いをさせて頂きたく意を決し、お引き受けする結果となりました。

殊に当法人は他の法人とは違って「創設者の中村元博士が遺された高邁な精神を永久(とわ)に、より健全に伝えてゆくという大理念を継承するのは至上命題である」との「暗黙の了解」が潜められておりますことは言うまでもないと存じております。

中村元博士は生涯、『論語』『為政第二』の最後の部分に記されてあります「義を見てせざるは勇無きなり」の揺るぎのない頑とした実践者でいらっしゃいました。その先生を生涯の恩師とし、仰ぐべき律儀としての「みおしえ」は、小生の全人格的と深層心理に深く刻まれております。

今日になりますと、「公益財団法人法」という誠に以て厳しいルールに乘じざるを得ない現実の中で、中村元博士が熟慮の上の熟慮の御賢察により築き上げた古き良き「温和で寛容な東方の精神」を同時に発現いたさねばならぬという難事がございます。

この難事に立ち向かうべく、「善良な管理者としての注意をもって自らの職務を行う義務を負うべき仕事」が「理事」であると定めている「民法第六四四条」に従って、理事長を補佐するという役割を果たす位置づけの仕事に徹して、小生が生涯中村元先生から賜りながら、報いることが出来ずに残されたままの身に余る御恩に、万分の一でも報いることが出来るように、「みをつくして」微力の最善を献げたい所存です。



しゃく ごしん

本籍：東京都、昭和 22 年生、駒澤大学大学院人文科学研究科仏教学専攻博士課程満期修了
文学博士、東京大学講師を経て、中村元記念館東洋思想文化研究所副所長、中村元東方研究所総務・副総括研究員、東方学院講師
専門：インド仏教学・東アジア仏教。
中村元東方特別賞受賞
特別研究員等審査会専門委員・国際事業委員会書面審査員(日本学術振興会)平成 30 年 7 月 31 日まで。『インドの共生思想の総合的研究—思想構造とその変容を巡って』編著等多数

新 刊 案 内

前田専學編 『原始仏典Ⅲ 増支部経典 第四巻』

『パーリ語三蔵』の「経蔵」に収められている原始仏教経典、『長部経典』『中部経典』『相应部経典』につづく『増支部経典(アングッタラ・ニカーヤ)』の現代語訳。本巻は第五集(全 26 章)を収録。

単行本：424 頁
出版社：春秋社 言語：日本語
ISBN-10：4393113543
ISBN-13：978-4393113547
発売日：平成 30 年 3 月 13 日
定価：本体 7,000 円(税別)



役員ご紹介

評議員紹介

平林 博 評議員



ひらばやし ひろし

昭和 15 年東京生まれ。元外交官。駐米公使、経済協力局長、内閣外政審議室長、駐印大使、駐仏大使など歴任。退官後は、日印協会理事長として今日に至る。この間、早稲田大学大学院客員教授、数社の社外取締役などに就任。

インドの思想・宗教、この分野でのわが国との関係について最高の教授・研究者を誇る中村元東方研究所・東方学院に關与できることを名誉に思っています。

外務省時代は、主として欧州、米国、東南アジア、中國との関係に従事しましたが、インドとの関係は、一九九〇年代半ばに経済協力局長として ODA を通じ關与しました。その後、内閣外政審議室長（現在の内閣官房副長官補）として村山富市・橋本竜太郎両総理に仕えました。官邸での役目を終えた際、橋本総理の勧めに従って駐インド大使をお受けしました。

インドでの在勤は四年八カ月に及びましたが、これは今日に至るまでの二人の駐印日本大使の中で最長の在勤記録です。平成一〇年着任後間もなく起こったインドの核実験と我が国 ODA の停止、その後二年にわたる日

印関係修復努力、インドとパキスタン間の戦争の危機に直面した際の対応など難しい問題はありましたが。しかし、インドの官民からも信頼され、歓迎され、外交官冥利に尽きる経験でした。

その後駐フランス大使を経て、平成一九年の退官後に日印協会の初代理事長に就任しました。核実験で傷めた日印関係修復のために平成一二年に森喜朗総理（当時）の訪印を実現し、「日印グローバル・パートナーシップ」を樹立しましたが、日印協会第 7 代会長となっていた森元総理から「理事長職を創設するから是非」と乞われ、今日に至りました。日印協会は大隈重信元総理、五百社以上の企業を創設した澁澤栄一らが明治三六年に創設したこの種の友好団体では最古の伝統を誇り、日印双方で信頼されている友好団体です。

中村元東方研究所・東方学院は、インドの思想、宗教研究分野での第一級の学者・研究者を糾合した最高の学術教育機関です。あえて期待を申し上げれば、幅広く発展している日印関係ですので、研究・教育の対象としてインドの内政や外交、経済や人的交流など現代のインドについても活動の幅を広げていただくことです。評議員として、これ等の分野でのインドに関する知見をもって多少なりとも貢献できれば望外の幸せと感ずる次第です。



新 刊 案 内

高橋尚夫著 『維摩經ノートⅢ 問疾品第五・不思議品第六・觀衆生品第七』



古今東西の仏教者にくり返し愛読されてきた『維摩經』の完全版！仏教の基本思想はもちろん、經典を読む楽しさも味わえます。巻頭にラモット『維摩經』の英訳者サラ・ボイン＝ウェッブによる序説等を収録。本文ではいよいよ維摩居士が登場し、文殊菩薩との対論に仏教の本質が説かれはじめます。

単行本：350 頁
 出版社：ノンブル社 言語：日本語
 ISBN-10：4866440104
 ISBN-13：978-4866440101
 発売日：平成 30 年 7 月 2 日
 定価：本体 5,500 円（税別）

■特集 アジアの価値観と民主主義 セミナー

丸井浩 常務理事



冒頭頁に前
田専務理事長
が報告されて
います通り、
本年7月5日
にホテルオー
クラ東京で
「アジアの価

値観と民主主義セミナー」というシンポジウムが開催されました。二〇一四年九月のインドのモディ首相訪日時に、安倍首相との間で立ち上げられた「アジアの価値観と民主主義セミナー」日印首脳イニシアティブ」という企画が、毎年、日印両国を中心にアジア諸国の著名人を招聘してシンポジウムを開催してきた中で、今年は第四回目でした。その企画立案にあたって、内閣官房副長官補の兼原信克氏と外務省南西アジア課長らが、中村元東方研究所に協力を求めて研究所に来られたのが昨年六月一三日のことでした。

日印首脳主導ということもあり、登壇者には著名な政治家も含まれ、そして「民主

主義」が主要なテーマになっていることなど、はたして本研究所がどれほど協力できる企画なのか、当初は不安な要素もあったことは確かです。しかし彼らは中村元先生の本をよく読まれ深い敬意を持たれていて、今回のシンポジウムには是非とも中村先生の偉大な知的遺産を生かし、私どもの協力のもとで成功させたいという熱意を、その場で話を伺った前田理事長、釈悟震理事、そして常務理事の丸井は重く受け止め、お引き受けすることにしました。結果的にはかなりの裁量権、自由度が認められることになり、前田理事長も書かれているように、三つの基調講演の最後が前田理事長、その後の第一セッションはスピーカーのほぼ全員が本研究所により選定され、釈総務はパネリストの一人として登壇し、丸井が司会進行を務め、さらに安倍首相の閉会挨拶でも中村先生の偉業を称える言葉はとりわけ印象深いものがありました。随所に中村先生と本研究所の存在が打ち出された、まことに記念すべきシンポジウムとなりました。

「いまや多くの国々が民主主義を擁しているアジア」では、主権を持った近代国家が成立する遙か以前から、「自由と人権を尊び、民主主義を支える価値観が社会の土台として」あったのではないかと、もしそ

うであるならば、そのような「民主主義を下支え」するような思想・宗教・価値観の伝統とはいかなるものか、あるいはそのような価値観の伝統を踏まえた各国の多様な民主主義の実情はどのようなものであるか?——こうした問いをめぐって、「アジア地域の政治指導者・研究者らが」「多面的な議論を展開」することがこのシンポジウムの趣旨でした。

基調講演の先陣を切ったフィリピン元大統領のアロヨ氏は、フィリピンの民主主義は米国によって制度として導入される以前から存在し、スペインからの独立宣言後に生まれた憲法にすでにうたわれていたことを指摘しました。一方、インド側の共催機関であるヴィヴェーカーナンダ国際財団のグルムルティ副会長は、世界最大の民主主義国家であるインドでは、古来、異宗教間の哲学的対話が発達しており、民主主義の基礎となる多様性の尊重と対話の実践はすでに長い伝統をもっており、極端なまでの個人主義に傾斜した西洋的な民主主義の限界を乗り越えるべく、紛争を回避し、家族的な連帯を重視するアジア的な民主主義を世界に発信するべきだと訴えました。そして、最後の基調講演者である前田理事長は、戦争の世紀を生きる中、世界が一つになりつつあるグローバル化の流れをいち早く見



第一セッション登壇者一同

抜き、究極的には世界平和の実現を志向して、インド哲学から比較思想までも広く研究された中村先生が、最終的に期待を寄せたのは仏教の慈悲に代表される東洋的な温かな心であることを力説し、このような慈しみの心を、「民主主義体制に生きる私どもアジアの価値観として」育み、「世界平和の実現に向けて一歩でも、二歩でも進もうではありませんか」と結びました。

それに続く第一セッションでは、まずバット氏(以下、同セッションの登壇者の肩書は前田理事長が記されています)が民主主義という制度の限界を指摘した上で、

行き過ぎた個人主義と法律ですべてを解決しようとする西洋的な考え方には一定の制約を設け、集団の絆を大切にすることがアジア的な価値観を見直して、普遍的な理法(ダ

ルマ)に則った「ダルモクラシー」の重要性を訴えました。一方、ワヒッド氏は直近のインドネシアにおける地方選挙の成果に言及する中で、集団の和に重きを置くアジア的な価値観の意義を認めつつも、個人の尊厳を大切に民主主義の精神と透明性の確保が、アジア的な専制主義の抑制と長期的な発展には不可欠であることを強調しました。次いで孫氏は、中国の古典である易経の陰陽思想をとりあげ、双方が互いに他者を認め合うことで自身も存在できるという自他のバランスを説く「中和」という概念の重要性を指摘しました。これに対して釈氏は、戦場においても敵味方の区別なく敵軍の兵士を弔う、仏教的な「怨親平等」という日本の伝統精神の尊さを、歴史的な事例に言及しつつとりあげ、こうした日本の和の思想が世界の民主主義の発展に寄与しうる可能性を述べました。最後にスマナサーラ氏は、個々の多様性を尊重しあい、すべての生類を傷つけてはいけないという仏教の不殺生の考え方を踏まえたアジア的社会的あり方をサファリーパークにたとえて、多数決ではなく話し合いで解決しようとするアジアの民主主義は、政治論というよりも生き方そのものとして見るべきではないかと訴えました。

このほか第二セッションのプレゼンター

を務めた兼原氏(前掲)は、二十世紀に生まれた大きな潮流の一つとして、人間の尊厳と万人の平等をもとめる思想的うねりにスポットあて、それはガンジーの非暴力主義として現れ、中村先生は「温かい心」と呼ばれたものであり、このような人間に等しく与えられているはずの「優しさ」に訴える「アジアの精神的伝統は、西洋に生まれた近代民主主義制度が、深く根を下ろすための豊かな精神的土壌を提供しているのだと思います」と結んでいました。

なお前田理事長と釈理事のトーク内容は、詳しくは次号の『東方』に掲載される予定です。また本シンポジウムのプログラムと登壇者の詳細は、共催機関の一つである国際交流基金のアジアセンターのサイト (<https://jfac.jp/culture/events/e-asianvalue-democracy-2018/>) に、安倍首相の閉会挨拶の全文は、後援機関である外務省のサイト (<https://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>) に掲載されています。ご興味のある方は是非ともご覧下さい。



まるい ひろし

(公財)中村元東方研究所常務理事・事務局長、武蔵野大学特任教授、東京大学名誉教授。博士(文学)。インド哲学研究者。著書に『ジャヤンタ研究—中世カシミールの文人が語るニヤヤ哲学』(2014年)などがある。

東方学院 講師ご紹介

ケネス田中講師

(東京本校)



けねす たなか

1947年山口県生まれ。シリコンバレー育ち。米国籍。武蔵野大学名誉教授。国際真宗学会前会長、日本仏教心理学会前会長。著書に『アメリカ仏教』、『智慧の潮—親鸞の智慧』など。第27回中村元東方学術賞受賞。

「涅槃寂靜」とはこのことだと思つたのは、今年の四月二日のことでした。その日は、退職後、始めての出勤日で「仕事に行かなくても良いのだ！」という不思議な快感を感じた時でした。考えてみれば、何もしなくても「良いんだ」というのは、小学一年生以来、なんと六十二年ぶり！

ところでこの快感を、「涅槃寂靜」と表現するのは、もちろん言い過ぎです。すみません。これも、私のユーモア的感覚として読んで頂ければ、ありがたいです。

私は、一九七四年には、カリフォルニアからの留学生として東方学院の受講生だったのです。三

つの講座を受け、沢山の示唆と刺激を得て、その後の私の勉学の糧となつてきました。そして四四年後に、「母校」の東方学院で教えられるということは、実に有り難いことです！

今年度は、「アメリカ仏教」を担当しています。そして来年度には、この科目を半期に縮め、「英語で歎異鈔を読む」という科目を加える予定です。この二つの科目を通して、仏教が西洋の壁を超えて発展していることを、日本の受講生に知ってもらいたいと思つています。

アメリカでは、この四十年間で仏教徒の数は十七倍増え、三五〇万人となっております。その外にも、仏教徒ではないが仏教に強く影響された人々は、二七〇〇万人だそうです。つまりアメリカ全人口の一角が何らかの形で仏教に関わっているのです。これも、「信じる宗教」から「目覚める宗教」という先進国で見られる新しい現象です。フランスでの仏教の存在感はもっと顕著です。さすが、「仏国」ですね！

谷口富士夫講師

(中部校)



たにぐち ふじお

名古屋大学大学院文学研究科博士課程(後期課程)東洋哲学専攻修了。文学博士(名古屋大学)。現在、名古屋女子大学教授。著書に『現観体験の研究』(山喜房佛書林)、訳書に『ダライ・ラマ 365日を生きる智慧』(春秋社)など。

私がチベット語と初めてかわつたのは大学学部2年の9月下旬のことでした。浜松の鴨江寺で開催された1週間ほどのチベット語セミナーに参加して、初めてチベット文字と発音、さらには簡単な現代チベット語会話を習いました。ちょうどその頃、講談社学術文庫から河口慧海の『チベット旅行記』が5分冊で発売され始めたところでした。

大学院に入って、より高度にチベット仏教を学ぶために、チベット亡命政府の所在地であるインド・ダラムサラに留学することになりました。その準備として、たまたまその年の夏に東洋文庫(参加者が多かったために、実際には

駒込駅近くの、より広い教室で行われました)で催された6週間の現代チベット語講習会にも参加しました。

ダラムサラでは当初、チベット論理学の教科書を読んできましたが、修士論文のテーマを『現観莊嚴論』(『二万五千頌般若経』の註釈書の一種)に変更してからは、その複註を読み、その成果を修士論文、さらには博士論文にまとめることができました。

『現観莊嚴論』の研究はその後にも継続して続けておりますが、それと共に、チベットで異端とされたチヨナン派の他空説についても研究を行っています。

現在の本務校での担当は主として初年次教育科目ですので、チベット仏教はおろか、そもそもインド哲学や仏教そのものについて教える機会がありません。そのよ

うな中で、今年度、東方学院中部校において「チベットの宗教と歴史」というテーマで話のできる機会をいただき、感謝しております。



東方学院
研究会員の声

宇杉玲子さん

(東京本校)

二〇一一年から、

前田専學先生の講義を受講しています。仏陀の故郷、インドの思想を、前田先生のご本をテキストにして、著者ご自身に講義をして頂けるといふ至福の時を過ごしています。私の日常生活とはかけ離れた思想は、一度の講義で理解などできず、何回も繰り返し本を読み講義を受ける中で少しずつ頭に残るようになってきました。二千年以上前から続いてきたインド哲学の一端に触れることができ、これからさらに深く勉強していきたいと願っています。

更に、今年度から開講された、今西順吉先生の「夏目漱石とインド哲学」も受講しています。夏目漱石は、子供の頃から読み親しんできました。作家漱石についての講演は度々開かれますが、手引きに書かれてい

た「漱石は思想家」という言葉に興味を持ちました。漱石の作品の中に見られるインド哲学の思想を「草枕」を読み進めながら、一対一で講義頂いています。今まで全く気が付かなかつた漱石の作品世界を知ることができ、とても刺激的で知的な時間です。

東方学院に出会い、大人になつてから学ぶことの楽しさを日々実感しています。これからも好奇心を持ち続け、学んでいきたいと思ひます。



漱石記念館にて



木村正子さん

(中部校)

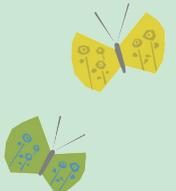
初めて中村元先生のお名前を知つたのは一九九三年頃の地方新聞日曜版でした。毎週人生のページという欄に『修道創意』を執筆され、私はその頃中間管理職の任にあり心身ともに余裕のない日々を送っていました。唯一ホットするのは子供を寝か

しつけた日曜日の夜でした。中村先生が目を細め柔らかな笑顔で語られた文章の中に「仏心はふだんはよくわからないが、だれにも内在し、何かの拍子に自覚するものです。広い立場に立つて相互理解を深め、内なる声に耳を澄ますことが、大切なではないでしょうか。」という文章が心に残りその後の生きていくための糧となりました。先生から紹介のあつた「原始仏教の成立」「原始仏教の思想」を購入しました。退職を機に東方学院の門を勇気を出してたたいた次第です。現在、病を得て

「勉強強いこと」は難しく門前の小僧にも及びません。写真でしか拝見することができない中村先生ですが先生の温かなまなざしが、私を東方学院に導いてくださつたのではと感じてなりません。先生の縁ある講師の方々から講義を受け感謝の気持ちで一杯です。



写真は元職場のお気に入り
の絵画の前で撮りました。



行事 イベント 報告

平成30年2月19日(月)開催
新春研究発表会
於 東京ガーデンパレス

恒例の新春研究発表会および懇談会が、2月19日(月)午後4時30分～6時30分、東京ガーデンパレス・高千穂の間において開催されました。今回は、第28回中村元

東方学術賞受賞者のケネス田中氏(武蔵野大学教授)による「仏教と心理学の協力―仏教教育の一角として」、および、浅野孝雄氏(日本脳神経外科学会専門医・埼玉



ケネス田中講師



浅野孝雄講師



医大名誉教授・南古谷病院特別顧問)による「脳と心…心についてのブツダの教えと現代脳科学」と題する講演

が行われました。出席者120名に上り、懇談会の折にも講師への熱い質問がつつく大盛会となりました。

また、懇談会では故奈良康明理事への黙祷が行われるとともに前田専學理事長による追悼の辞と千綿道人評議員による献杯が行われました。



千綿道人評議員による献杯

平成30年7月29日(日)開催 神儒仏合同講演会 於 神田神社

神田神社・湯島聖堂・中村元東方研究所の三団体共催、神儒仏合同講演会の第10回が、7月29日(日)午後1時～5時、神田神社祭務所ホールにて行われました。神田神社の大鳥居信史宮司の開会あいさつに始まり、共通テーマ「長寿をたのしむために」のもと、



神道からは、三橋健講師「笑顔で長生きするために」、儒教からは佐藤保講師「儒と長寿について」、仏教からは、山崎龍明講師「長生不死の神方―たしかかなものとのであい―」と題する講演が行われま



前田専學理事長

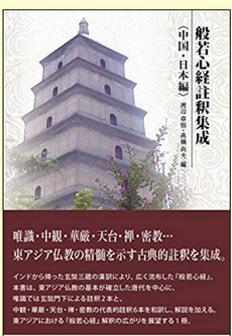
した。「長寿」が必ずしも楽しみとは言い切れない「超

新刊案内

渡辺章悟、高橋尚夫編 『般若心経註釈集成〈中国・日本編〉』

インドから帰った玄奘三蔵の漢訳により、広く流布した『般若心経』。本書は、東アジア仏教の基本が確立した唐代と、それを承けた奈良・平安時代の註釈から、唯識では玄奘門下による2本と、中観・華嚴・天台・禪・密教の6本を和訳し、解説を加える。東アジアにおける『般若心経』解釈の広がりを展望する1冊。

単行本：472頁
出版社：起心書房 言語：日本語
ISBN-10：4907022131
ISBN-13：978-4907022136
発売日：平成30年7月30日
定価：本体9,600円(税別)



高齢社会」がすすむ現在の日本において、「長寿をたのしむ」ことが可能であるのかという、神儒仏の知恵に学びたい方々の熱い思いに包まれ、出席者110名の盛会となりました。



三橋健講師



佐藤保講師



山崎龍明講師

また、三つの講演後の、清水祥彦神田神社 権宮司の総括の中で、神儒仏合同講演会の設立以来の立役者であった、中村元東方研究所の故奈良泰明元常務理事に対する哀悼がささげられました。

平成30年5月19日(土)開催
仏教文化講演会
於 高松・法恩寺

平成22年より香川県高松市の法恩寺と共催で開催されてまいりました仏教文化講演会が、今年も平成30年5月19日(金)に開催されました。中村元東方研究所からは堀内伸二専任研究員が「仏教を歩むとは?—臨済禅の修行を通して—」と題し講演を行いました。また、当日は「カリスマ挿絵画家・高島華宵」と題し、は松本品子講師(弥生美術館学芸員)による講演が合わせて行われました。



【今後のイベントのご案内】

★東方学院・酬仏恩講演合同講演会

日時..平成30年12月2日(日)
会場..薬師寺 まほろば会館

(奈良県奈良市)

講師..未定

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせ申し上げます。

★新春研究発表会

日時..平成31年2月18日(月)
会場..東京ガーデンパレス
講師..未定

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせ申し上げます。



新 刊 案 内

森和也著 『神道・儒教・仏教』

現代日本人の意識の深層は江戸時代と地続きであることが明らかにされつつある。したがって江戸の思想を支配していた三教—神道・儒教・仏教—にこそ、我々の内面の問題を解く鍵がある。幕藩体制に組み込まれた仏教。近世の思想界において主導的立場に立った儒教。国学の勃興と明治維新のイデオロギーとして機能した復古神道。これらはいかに交錯し、豊かな思想の世界をかたちづけていたか。我々の基盤になっている思想の原風景を探訪し、その再構成を試みる野心作。

単行本：446頁
出版社：筑摩書房(ちくま新書) 言語：日本語
ISBN-10：4480071393 ISBN-13：978-4480071392
発売日：平成30年4月6日
定価：本体1,100円(税別)



事務局通信

【東方学院専用ホームページのお知らせ】

平成30年1月1日より、スマートフォンにも対応している東方学院専用ホームページ <http://tohogakuin.org> を公開しております。講師・講義の紹介や学院からのお知らせなどをご確認頂けます。ぜひご活用ください。

【編集部より】 東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。また、ご寄稿もお待ちしております。尚、ご連絡は手紙（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000円

・賛助会費：一口 年 10,000円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受け、平成24年7月2日をもって、従来の財団法人から「公益財団法人」へと移行いたしました。公益財団法人へ移行したことに伴い、上記(1)、(2)の一般ご寄付及び維持会・賛助会の会費は、下記の通り税制上の優遇措置が受けられます。

※所得控除・・・所得控除は、所得金額に対して寄付金額の大きい場合に減税効果が大きくなります。「その年の寄付金額 - 2,000円」が課税される所得金額から控除されます。控除できる寄付金額はその年の総所得金額等の40%相当額が限度となっております。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶専任研究員紹介、書籍案内
- ▶公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど

東方学院専用ホームページ URL :

<http://www.toho-gakuin.org>

(スマートフォン対応)

東方学院

検索

- ▶東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 平成30年度前期号 (通号第32号)

平成30年10月10日発行

【編集 / 発行】 公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局 (東京)

編集責任者：釈悟震

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-17-2 延寿お茶の水ビル4階

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082